「マイ オピニオン 意見・私見」

「公民館活動を通じて考えること」

秋津地区 専門部員　松田　英典

公民館の専門部員として活動させていただき1年と10ヶ月が過ぎ、正直ここまでこぎつけたことに少々ホッとしているというのが率直な感想です。一昨年の四月に区の役員から専門部員の招集がかけられ、よくわからぬまに参加することになりました。（そもそも私自身は伊那谷で生まれ育ち県内各地を転々とし、そしてこの地に住み着いてから、五、六年といった頃の出来事でした。）見慣れた顔のいない中ではありましたが、会合や行事を通じ、少しずつ仲間を増やすことができていることを肌で感じることができたのは、貴重な収穫と思っております。

地区運動会、球技大会、文化祭は大掛かりな準備を伴うため面倒なことが正直多い、しかしひとつひとつ成功していく行事をこなすという充実感を得られたことには感謝しております。（残りの任期を全ういたします。）

飯山という地に移り住んだことに感謝し、この地で少しでも皆様のお役に立てるよう、今後も努力して参りたいと考えております。

秋津地区のイベントはまだまだ続き、二月の「いいやま雪まつり」に合わせて伍位野交差点付近で「あきつ雪だるままつり」も予定しております。秋津地区の盛り上がりぶりを是非見に来てください。よろしくお願いします。

昨年の雪だるままつり風景

「新聞作り」

富倉地区 専門部員　大塚　幸広

私は今、富倉公民館専門部員であり、広報を担当しています。広報の一つに新聞づくりがあります。最近は時代の進歩により、パソコンを使ってこの新聞を作ります。自分自身仕事柄パソコンを使う事もなく、またその様な趣味もなく使っても年賀状の作成程度でありましたので、最初にこの新聞を作る際にはパソコンの知識のある妻の手を借りてやっとの思いで第一号を発行する事ができました。この新聞の名前（タイトル）ですが、富倉地区の新聞であるので「とみくら」としました。

皆さんのご存じな事ですが、飯山市は高齢化が進んできています。自分の親でも若い順から数えた方が早い程です。そんな訳で新聞の文字は大きくし、文章も少なめにして写真を多く取り入れる様にしています。今はカメラ付の携帯電話があるので便利です。このカメラで撮った写真のデータをパソコンに移して新聞作りに活用しています。最初は使い方もわからず苦労しましたが、今では便利と感じています。これが二十年程前であれば、撮った写真は現像してもらわなければ出来ないし、日数も必要ですのでこの辺りが時代の進歩と感じます。

しかし、ただ一つだけ残念な事があるのですが、新聞として配付する際にせっかくの写真が白黒になってしまう点です。ただコストの事もあるので、こればかりは仕方ありません。最後になりますが、発行間隔が空いているのが反省点と感じます。

「主催行事の存続や継続について」

太田地区 専門部員　藤田　大志

昨年太田地区は球技大会と日程が近く、繁忙期で参加しづらい等の理由から運動会の中止を決定しました。代替案を模索しましたが、結局新しいことをはじめられないまま、一年が過ぎました。

それまでの行事をそのまま引き継いでいくだけでは、他の行事もいずれ形骸化し、やがては行事がなくなる可能性が現実味を帯び始めています。

任期も残すところあと一年になり、消滅のきっかけを作った専門部員にはなりたくないので、存続のための道筋を刻まなくてはいけません。

行事のマンネリが参加人数の減少を加速させています。新しい行事を考えつけば一番いいのですが、予算が限られ、新しいルール作りも必要であり、なかなか手際よく進みません。

この悩みは当地区特有で、近隣地区は繁盛しているのでしょうか？

他の地区の専門部員の方と年に1，2回顔をあわせる機会はありますが、いずれも研修会や青少年芸術祭の幕間という短時間のため地区に情報を還元するまでには至りません。

与えられた機会を利用するのでなく、自ら赴いて話しを伺わせていただくことにしましたので、各地区館の方々、その時はお力添えをよろしくお願いします。

飯山雪国大学子育て公開講座

「心の新芽が出たよ」

講師　子ども家庭教育フォーラム・チーフカウンセラー
荻野　ゆう子　先生

〜親と子・先生・地域気づき合い、育ち合う関わり〜

家族や人との関わりについて、子どもも大人もお互いに弱さを抱えながらも一生懸命生きています。その中で、ぶつかり合っても、なんらかの形でつながりを持っていくことが大切です。怒りや不満は、普段から小出しにし、お母さんも人間でいろんな感情をもつ生き物であることを子どもには見せておくことも必要です。

子どもも子育て中の親も、どんな人でも、自分を許すこと、いろんな自分があっていいんだという気持ちを持つことが大切ではないかと話されました。

子育て中には切ない出来事もたくさんあります。立ち止まって考えた時、子どもに悪かったと気づければそれでよい。子どもが、親につっかかってくるのは、かまってもらえると信じているからであり、すねたりいじけたりしている子ほど、人とのふれあいを求めているものです。そんな時、苦しい自分を、誰かに受け入れられると、人は強くなれます。

今の世の中、忙しく、話せない、待てない時代、だからこそ子どもが、つっかかってくる時やもぞもぞしている時に付き合うことが大切。ありがちなのは事情の「事」は聞けるけど、肝心な「情」の方はなかなか聞けていない。事柄を聞くのではなく思いをくみ取り、気持ちを聞くことが大切です。

最後に、人と出会い「一人じゃないんだ」という実感を持つこと。いろいろあるけど、人っていいなあと思える人間関係を築けていけたらいいのではと話されました。

カウンセラーとして、日頃かかわっている子どもや親との体験談を交えてお話いただき、とても心に響くお話を聞かせていただきました。参加者からは「悩んでいたことがあったが先生のお話を聞いて楽な気持ちになれた。」「お話を聞いてまずは子どものあるがままの姿を認めたいという気持ちになれた。」などの声が寄せられ好評でした。

【地区館情報】

木島

◇**第35回木島少年クロスカントリースキー大会**

2月1日（日）午前8時30分より、木島工場団地北側特設コースにて開催します。

大会予備日2月8日

瑞穂

◇**そば打ち道場**

11月29日、12月13日・20日の3回講座で「そば打ち道場」を開講し、更に12月27日には「年越そばを打つ&試食会」として、年越そばを自らの手で打ってみようという会を設けました。

参加者の皆さんは、先生のお手本に感心しながらも、自分の技術も磨こうと一生懸命に取り組んでいただきました。「年越そばを打つ&試食会」の最後には、先生が試食用に打ってくださった富倉そば、韃靼（だったん）そば、そば茶などに皆で舌鼓を打ち、正にそばづくしの締めくくりができました。

外様

◇**しめ縄づくり講習会**

12月7日（日）に開催し、参加者27名で社協事業に子ども会育成会とともに協力しました。地元産スゲを使用した、しめ縄を作成し、良い年を迎えることができたと拝察いたします。

◇**ふれあいバスハイク第2弾**
富山・氷見　旬食（しゅんしょく）ツアー
氷見湾の旬を食べて元気になろう！

12月13日（土）に参加者23名で開催しました。季節感を忘れがちな現在の食生活ですが、「旬を食べる生活」を見つめ直す良い機会となりました。

◇**そば打ち教室**

12月14日（日）に、参加者15名で開催しました。地元顔戸産のそば粉を使い、地元講師3名に教えていただきました。各自打った「長さ」も「味」も「違う」そばを食べ比べ、とても楽しいひとときとなりました。

◇**第9回かまくら祭り**

2月14日（土）〜15日（日）

宝探しゲーム、餅つき大会、雪積みタワーレース、お祝い花火、かまくら神社、雪上車・スノーモービル試乗体験、各種出店します。

常盤

◇**学習講座「ミニ門松作り」**

12月21日（日）午後1時30分から瑞穂（関沢）の鈴木智洋さんを講師に常盤公民館で開催しました。参加者25人の皆さん全員が、世界に一つだけの手作り門松で「良き新年」を迎えたことと拝察いたします。

本年も常盤公民館をよろしくお願いします。

—役員一同—